

Ⅲ 岡山大学環境理工学部規程

〔平成16年4月1日〕
〔岡大環規程第1号〕

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人岡山大学管理学則（平成16年岡大学則第1号。）及び岡山大学学則（平成16年岡大学則第2号。以下「学則」という。）の規定に基づき、岡山大学環境理工学部（以下「本学部」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(本学部の目的)

第2条 本学部は、広く環境理工学に関する知識を授け、深く専門の学芸を教授研究して、知的、道德的、創造的及び応用的能力を有する人材を育成することを目的とする。

(自己評価等)

第3条 本学部は、本学部に係る点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を公表する。

2 前項の自己評価については、岡山大学（以下「本学」という。）の教職員以外の者による検証を受けるよう努めるものとする。

3 自己評価等に関し、必要な事項は、別に定める。

(教育研究等の状況の公表)

第4条 本学部は、教育研究及び組織運営の状況等について、定期的に公表する。

(組織的研修等)

第5条 本学部は、教員の教育内容及び教育方法の改善を図るため、組織的な研修及び研究を実施する。

(学科)

第6条 本学部に次の学科を置く。

環境数理学科

環境デザイン工学科

環境管理工学科

環境物質工学科

(副学部長)

第7条 本学部に副学部長を置く。

2 副学部長に関し、必要な事項は、別に定める。

(学科長)

第8条 本学部各学科に学科長を置く。

2 学科長に関し、必要な事項は、別に定める。

(授業科目及び単位数)

第9条 授業科目は、教養教育科目及び専門教育科目に区分する。

2 個々の授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、各学科の授業科目及びその単位数は、別表第1のとおりとする。ただし、別表第1に定めるもののほか、必要があるときは、特別に授業科目を開講するものとする。

(授業の方法)

第10条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(単位の計算方法)

第11条 授業科目の単位の計算方法については、次の基準によるものとする。

- 一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験及び実習については、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。
- 四 一の授業科目について、講義、演習、実験又は実習のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前三号に規定する基準を考慮した時間の授業をもって1単位とする。
- 五 卒業論文(環境数理学科においては情報課題研究を含む。)については、それに必要な学修等を考慮して10単位とする。

(授業科目の公示)

第12条 授業科目、授業担当教員及び授業時間表は、学年の始めに公示する。

(成績評価基準)

第13条 本学部は、各授業における学習目標や目標達成のための授業の方法及び計画を明示するとともに、学生の授業への取組状況等を考慮した多面的な成績評価基準を定めて公表する。

(履修手続)

第14条 学生は、履修しようとする授業科目を、学年の始めの指定する期日までに、所定の手続により、学部長に届け出なければならない。

- 2 前項の期限内に手続が完了できない特別の理由が生じた場合は、所属学科の承認を得て届け出ることができる。
- 3 他学部の授業科目を履修しようとするときは、学部長を経て当該学部長の許可を受けなければならない。
- 4 他学部学生が本学部の授業科目の履修を希望するときは、所属学部長を経て願い出なければならない。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第15条 学生が他の大学(外国の大学を含む。)又は短期大学(外国の短期大学を含む。)の授業科目を履修しようとするときは、所属学科の承認を得て、所定の様式により学部長に願い出るものとし、当該大学又は当該短期大学との協議の成立が得られたものについて、許可するものとする。

- 2 前項により履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で、教授会の議を経て学部長が本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を認定できるものとする。
- 3 前2項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第16条 学生が短期大学又は高等専門学校専攻科における学修を希望するときは、所属学科の承認を得て、所定の様式により学部長に願い出て許可を受けなければならない。

- 2 前項による学修その他文部科学大臣が定める学修については、教授会の議を経て学部長が本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を認定できるものとする。
- 3 前項の規定により認定することができる単位数は、前条の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(単位の認定)

第17条 授業科目を履修した者に対しては、第13条に規定する成績評価基準に照らし、授業担当教員が単位を認定するものとする。

- 2 前項の認定は、「A+」、「A」、「B」、「C」及び「F」の評語をもって表し、「A+」、「A」、「B」

及び「C」を合格、「F」を不合格とする。ただし、必要と認める場合は、「A+」、「A」、「B」及び「C」の評語に代えて、「修了」又は「認定」とすることができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第18条 学生が本学部に入學する前に、大学若しくは外国の大学(外国の大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修した場合及び外国の大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合を含む。)又は短期大学若しくは外国の短期大学(外国の短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修した場合及び外国の短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合を含む。)での履修又は短期大学若しくは高等専門学校専攻科での学修により修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、教授会の議を経て学部長が本学部に入學した後の授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を認定できるものとする。

2 前項の規定により、修得したものと認定できる単位数は、転学、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第15条及び第16条の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(卒業論文)

第19条 卒業論文(環境数理学科においては情報課題研究を含む。)の履修要件は、別に定める。

(卒業の要件)

第20条 卒業の要件は、4年以上在學し、別表第2に定める単位数以上を修得することとする。

(転学科、転学部、編入学及び学士入學)

第21条 本学部内の転学科、他学部又は他大学からの転学部、編入学及び学士入學を志願する者があるときは、選考の上、教授会の議を経て、許可することがある。

2 他大学へ転学を志願する者は、受験許可発行願を提出の上、手続を行うものとする。

(再入學)

第22条 願いにより退學した者で再入學を志願する者があるときは、選考の上、教授会の議を経て、許可することがある。

2 前項により再入學を志願する者は、その理由を記載した願書を学部長に提出しなければならない。

(在学期間の通算等)

第23条 第21条第1項及び前条第1項の規定により転学科、転学部、編入学、学士入學及び再入學を許可された者の在学期間の通算及び既修得単位の認定は、教授会の議を経て、学部長が行う。

2 学則第30条第2項及び第3項の規定による科目等履修生としての学修期間の修業年限への通算については、別に定める。

(教育職員免許状)

第24条 本学部において取得することができる教育職員免許状の種類は、次の表に掲げるとおりとする。

学 科	教育職員免許状の種類	免許教科
環 境 数 理 学 科	高等学校教諭一種免許状	数学・情報
環境デザイン工学科	高等学校教諭一種免許状	工 業
環 境 管 理 工 学 科	高等学校教諭一種免許状	理 科
環 境 物 質 工 学 科	高等学校教諭一種免許状	理 科

2 前項の教育職員免許状を取得しようとする者は、別に定めるところにより、所定の単位を修得しなければならない。

(科目等履修生)

第25条 本学の学生以外の者で、本学部の授業科目について履修を志願する者があるときは、教授会

の議を経て、科目等履修生として入学を許可することがある。

- 2 科目等履修生の取扱いについては、別に定める。

(特別聴講学生)

第26条 他の大学(外国の大学を含む。)又は短期大学(外国の短期大学を含む。)の学生で、本学部の授業科目について聴講を志願する者があるときは、当該大学又は当該短期大学との協議に基づき、教授会の議を経て、特別聴講学生として入学を許可することがある。

- 2 特別聴講学生の取扱いについては、別に定める。

(委託生)

第27条 公の機関又はその他の機関からその所属職員につき、聴講科目若しくは研究事項を定め、又は研修について委託の願い出があるときは、教授会の議を経て、委託生として入学を許可することがある。

- 2 委託生の取扱いについては、別に定める。

(研究生)

第28条 本学部において、特定事項の研究を志願する者があるときは、教授会の議を経て、研究生として入学を許可することがある。

- 2 研究生の取扱いについては、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成15年度以前の入学者については、岡山大学環境理工学部規程等を廃止する規程(平成16年岡大環規程第1号)により廃止された岡山大学環境理工学部規程(平成15年岡山大学環境理工学部規程第1号)の例による。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。ただし、平成16年度以前入学者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。ただし、平成17年度以前入学者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。ただし、平成18年度以前入学者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。ただし、平成19年度以前入学者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。ただし、平成20年度以前入学者については、なお従前の例による。

別表第1

教養教育科目

○各学科共通

科目区分		授業科目及び単位数	履修要件
ガイダンス科目		開講授業科目及びその単位数については、岡山大学教育開発センター長が学年の始めに公示する。	履修に係る要件は各学科の定めるところによる。
主題科目	現代の課題		
	人間と社会		
	健やかに生きる		
	自然と技術		
個別科目	人文・社会科学		
	自然科学		
	生命・保健科学		
	情報科学		
外国語科目	英語		
	ドイツ語		
	フランス語		
	中国語		
	韓国語		
	ロシア語		
	スペイン語		
	イタリア語		
	日本語		

専門教育科目

○環境数理学科

科目区分	授業科目	単位数
専門基礎科目	[必修科目] 環境理工学入門	2
	技術者倫理	2
	[選択科目] キャリア形成論	2
	[必修科目] 線形代数Ⅰ	2
	線形代数Ⅱ	2
	線形代数Ⅱ演習	1
	統計学Ⅰ	2
	[選択科目] 統計学Ⅱ	2
	現代の物理学	2
	基礎からの力学	2
	現代の化学	2
	[選択科目] 環境と生物	2
	環境生物学	2
	気象と水象	2
	環境と地理	2

科目区分		授業科目	単位数
専門基礎科目	環境科学系 科目	地球と環境	2
		循環型社会システム	2
		水質学	2
		エネルギーとエントロピー	2
		環境と物質	2
		環境と地盤	2
		環境影響評価学	2
		基礎地球科学	2
		実践型水辺環境学及び演習Ⅰ	2
		実践型水辺環境学及び演習Ⅱ	2
専門科目		[必修科目]	
		微分積分Ⅰ	2
		微分積分Ⅰ演習	1
		微分積分Ⅱ	2
		微分積分Ⅱ演習	1
		計算機リテラシ入門	2
		離散数学入門	2
		応用解析学A	2
		ベクトル解析	2
		情報統計学	2
		数理統計学Ⅰ	2
		プログラミング言語	2
		プログラミング言語演習	1
		計算解析	2
		グラフとアルゴリズム	2
		環境数理学演習	2
		卒業論文	} 10
		情報課題研究	
		[選択科目]	
		計算機操作入門	2
		計算機理論入門	2
		線形代数Ⅲ	2
		代数学Ⅰ	2
		代数学Ⅱ	2
		幾何学基礎	2
		幾何学要論	2
		応用解析学B	2
		フーリエ解析と偏微分方程式	2
		確率論	2
		力学系とモデリング	2
		実験数理	2
		数値シミュレーションⅡ	2
		計算統計学Ⅰ	2
		数値シミュレーションⅠ	2
		実験情報数理	2
		計算統計学Ⅱ	2
		数理統計学Ⅱ	2
		計量アナリシスⅠ	2

科目区分	授業科目	単位数	
専門科目	環境アナリシス	2	
	環境情報モデル学	2	
	環境数理生物学	2	
	偏微分方程式とその応用	2	
	環境統計科学Ⅰ	2	
	環境統計科学Ⅱ	2	
	応用数理Ⅰ	2	
	応用数理Ⅱ	2	
	環境数理モデルA	2	
	環境数理モデルB	2	
	計量アナリシスⅡ	2	
	環境統計モデル	2	
	[自由科目]		
	情報と職業	2	
	情報数理インターンシップ	2	
	情報化社会と技術（工学部開講）	2	
	計算機アーキテクチャⅠ（工学部開講）	2	
	土壌科学概論	2	
	植生管理学	2	
	廃棄物マネジメント	2	
	景観論Ⅰ	2	
	数値解析学	2	
	農村整備学	2	
	森林環境論	2	
	環境政策論	2	
	労働環境工学	2	

上記以外の授業科目で、学科が認める科目については、自由科目として取扱う。

○環境デザイン工学科

科目区分	授業科目	単位数
専門基礎科目	[必修科目]	
	環境理工学入門	2
	技術者倫理	2
	[選択科目]	
	キャリア形成論	2
	[必修科目]	
	情報処理入門	2
	基礎からの力学	2
	現代の物理学	2
	[選択科目]	
	線形代数Ⅰ	2
	統計学Ⅰ	2
	現代の化学	2
	線形代数Ⅱ	2
統計学Ⅱ	2	

科目区分		授業科目	単位数
専門基礎科目	環境科学系 科目	[必修科目] 水質学	2
		[選択科目] 基礎地球科学	2
		環境生物学	2
		地球と環境	2
		環境と地盤	2
		気象と水象	2
		エネルギーとエントロピー	2
		循環型社会システム	2
		実践型水辺環境学及び演習Ⅰ	2
		実践型水辺環境学及び演習Ⅱ	2
		環境影響評価学	2
		環境と物質	2
		専門科目	[必修科目] 変形体力学Ⅰ及び演習
測量学	2		
測量学実習	1		
情報処理及び実習	3		
構造材料学	2		
土質力学Ⅰ	2		
水理学及び演習	3		
廃棄物マネジメント	2		
土質力学演習	1		
外国書講読	2		
大気環境学	2		
都市・地域計画学	2		
景観論Ⅰ	2		
卒業論文	10		
[選択科目] A群 解析学	2		
応用解析学A	2		
応用解析学B	2		
数値解析学	2		
[選択科目] B群 変形体力学Ⅱ	2		
振動学	2		
耐震防災工学	2		
コンクリート構造設計学Ⅰ	2		
コンクリート構造設計学Ⅱ	2		
鋼構造設計学	2		
[選択科目] C群 土質力学Ⅱ	2		
地下水環境工学	2		
地盤工学	2		
地盤環境工学	2		
[選択科目] D群 水理設計学及び演習	3		

科目区分	授業科目	単位数
専門科目	流域環境学	2
	環境水理学	2
	河川環境学	2
	沿岸環境学	2
	[選択科目] E群	
	上下水道学	2
	水環境解析	2
	生態毒性学	2
	衛生薬学Ⅱ (薬学部開講)	2
	[選択科目] F群	
	計画数理	2
	交通計画学	2
	景観論Ⅱ及び演習	3
	環境計画学	2
	計画学演習	1
	[選択科目] 実験系	
	土質試験法及び実験	1
	材料試験法及び実験	1
水理計測法及び実験	1	
水・環境質計測法及び実験	1	
[選択科目] 実習系		
環境デザイン工学インターンシップ	1	

上記以外の授業科目で、学科が認める科目については、選択科目として取扱う。

○環境管理工学科

科目区分	授業科目	単位数
専門基礎科目	[必修科目]	
	環境理工学入門	2
	技術者倫理	2
	[選択科目]	
	キャリア形成論	2
	[必修科目]	
	情報処理入門	2
	物理入門	2
	現代の化学	2
	[選択科目]	
	統計学Ⅰ	2
	統計学Ⅱ	2
基礎からの力学	2	
物質化学入門	2	
[必修科目]		
環境と生物	2	
気象と水象	2	
環境と地理	2	
科目区分	授業科目	単位数

<p>専門基礎科目</p>	<p>環境科学系 科目</p>	<p>[選択科目] 地球と環境 2 水質学 2 エネルギーとエントロピー 2 環境と物質 2 環境と地盤 2 環境生物学 2 環境影響評価学 2 基礎地球科学 2 循環型社会システム 2 実践型水辺環境学及び演習Ⅰ 2 実践型水辺環境学及び演習Ⅱ 2</p>	
<p>専門科目</p>	<p>[必修科目] 環境管理数学 2 環境管理工学演習 1 分野演習 1 土壌科学概論 2 植生管理学 2 基礎地形情報学 2 土壌の物質移動学 2 生産基盤管理学 2 流体力学入門 2 流域水文学 2 水資源利用学 2 水文環境管理学 2 構造力学Ⅰ 2 構造力学Ⅱ 2 土質力学 2 環境施設設計学 2 地域景観論 2 土地利用計画学 2 公共財管理論 2 地域開発論 2 農村計画論 2 農村整備学 2 基礎地形情報学実習 2 環境生物学実験 1 土壌物理実験 1 水利実験 1 土質・コンクリート実験 1 卒業論文 10 [選択科目] 土壌圏管理学 2 土壌物理学 2 水理学 2 地域経済学 2 応用解析学A 2 環境気象学 2</p>		

科目区分	授業科目	単位数
専門科目	地盤防災工学	2
	環境経済学	2
	環境情報処理	2
	応用解析学B	2
	水域環境管理学	2
	環境施設管理学	2
	コンクリート工学	2
	環境管理工学実習	2
	地形情報管理学	2
	森林環境論	2
	景観管理学	2
	外国書講読	2
	地形情報管理学実習	2
	土地利用計画学演習	2

上記以外の授業科目で、学科が認める科目については、選択科目として取扱う。

○環境物質工学科

科目区分	授業科目	単位数	
専門基礎科目	[必修科目] 環境理工学入門	2	
	学部共通科目 技術者倫理	2	
	[選択科目] キャリア形成論	2	
	[必修科目] プログラミング入門	2	
	基礎科学系 科目	基礎物理化学	2
		物質数理科学	2
		[選択科目] 情報処理入門	2
		工学基礎	2
		統計学Ⅰ	2
		統計学Ⅱ	2
		現代の物理学	2
		基礎からの力学	2
		物質化学入門	2
		[必修科目] 循環型社会システム	2
	環境科学系 科目	環境影響評価学	2
		[選択科目] 環境と生物	2
		気象と水象	2
		地球と環境	2
水質学		2	
エネルギーとエントロピー		2	
環境と物質		2	
環境生物学		2	

科目区分		授業科目	単位数
専門基礎科目	環境科学系 科目	基礎地球科学	2
		実践型水辺環境学及び演習Ⅰ	2
		実践型水辺環境学及び演習Ⅱ	2
専門科目		[必修科目]	
		物理化学A	2
		熱力学	2
		物理化学B	2
		物理化学C	2
		化学結合論Ⅰ	2
		化学結合論Ⅱ	2
		無機化学	2
		有機化学Ⅰ	2
		有機化学Ⅱ	2
		高分子化学Ⅰ	2
		化学工学A	2
		化学工学B	2
		反応工学	2
		外国書講読	2
		環境分析化学実験	2
		環境化学実験Ⅰ	1
		環境化学実験Ⅱ	1
		環境化学実験Ⅲ	1
		卒業論文	10
		[選択科目]	
		応用解析学A	2
		応用解析学B	2
		環境分析化学	2
		機器分析	2
		固体化学	2
		セラミックス物性化学	2
		無機材料化学	2
		有機化学Ⅲ	2
		環境有機化学	2
		高分子化学Ⅱ	2
		分離工学	2
		環境触媒化学	2
		化学プロセス工学	2
		化学装置設計	2
		環境政策論	2
労働環境工学	2		
環境物質工学実習	1		
環境物質工学各論Ⅰ	1		
環境物質工学各論Ⅱ	1		

上記以外の授業科目で、学科が認める科目については、選択科目として取扱う。

別表第2

学 科 区 分		教養教育科目	専 門 教 育 科 目		合 計 単 位
			専門基礎科目	専 門 科 目	
環 境 数 理 学 科	必修	6	11	37	128
	選択	24	10	30	
	自由	—	—	10	
環 境 デ ザ イ ン 工 学 科	必修	6	12	37	129
	選択	26	16	32※	
	自由	—	—	—	
環 境 管 理 工 学 科	必修	6	16	58	129
	選択	27	6	16	
	自由	—	—	—	
環 境 物 質 工 学 科	必修	6	14	43	130
	選択	29	10	28	
	自由	—	—	—	

※選択科目B群～F群にかかわる選択必修科目は本表では選択科目に分類して表してある。
履修にあたっては、所属学科の指導を受けること。

1 環境理工学部成績評価基準

1. 各授業科目の成績評価は、担当教員が環境理工学部及び学科の理念・目標に沿った上で、授業科目の特性に応じた到達目標を設定し、その到達目標に対する学生の到達度に基づき行う。到達目標と評価の方法はシラバスに明示する。
2. 成績評価は、各科目の特性を踏まえて、授業の形態と内容に対応した適切で多面的な方法により行い、授業及び授業時間外の自己学習を通して得られた学習効果も適切に反映されるように努める。そのことはシラバスに明示する。

3. 成績評価の評語

【平成20年度以降入学生】

成績評価は、シラバスに明示した成績評価基準にしたがって行い、「A+」、「A」、「B」、「C」、「修了」、「認定」及び「F」の評語をもって表す。

「A+」（100点～90点）、「A」（89点～80点）、「B」（79点～70点）、「C」（69点～60点）を合格、「F」（59点以下）を不合格とする。ただし、必要と認める場合は「A+」、「A」、「B」、「C」の評語に代えて「修了」又は「認定」とすることがある。

また、履修登録をしたにもかかわらず、試験を受けていない等で成績評価の必須の資料を欠く場合については「F」とする。

【平成19年度以前入学生】

成績評価は、シラバスに明示した成績評価基準にしたがって行い、優、良、可、修了、認定及び不可の評語をもって表す。

優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）を合格、不可（59点以下）を不合格とする。ただし、必要と認める場合は優、良、可、の評語に代えて修了又は認定とすることがある。

また、履修登録をしたにもかかわらず、試験を受けていない等で成績評価の必須の資料を欠く場合については不可とする。

なお、担当教員は、成績評価に関して予め学生によく周知させておくとともに、学生からの質問に対して適切に対応しなければならない。

2 岡山大学環境理工学部における卒業論文の認定基準

1. 卒業論文提出者は、社会に生かす専門性を身につけ、問題設定・解決に向けた研究および技術開発に取り組むための基盤となる学識を有していること。
2. 卒業論文は、信頼性の十分なデータと誠実な考察に基づいて、明快かつ論理的に書かれていること。
3. 卒業論文は、十分な内容と価値ある成果を含んでいること。
4. 卒業論文の内容は、主体的な学習によって得られたものであること。

新しい成績評価の仕組み（GPA 制度）について

岡山大学では、平成 20 年度入学生より新しい成績評価の仕組み（GPA 制度）を導入しています。

1. GPA 制度とは

- ① これまでの成績評価は、優・良・可・不可の 4 段階でしたが、これを A+・A・B・C・F の 5 段階評価とします。

これまでの成績評価		合格	→	GPA 制度による成績評価			合格
成績（評点）	評語			成績（評点）	評語	GP	
80-100 点	優	合格	90-100 点	A+	4	合格	
70-79 点	良		80-89 点	A	3		
60-69 点	可		70-79 点	B	2		
0-59 点	不可	不合格	60-69 点	C	1	不合格	
			0-59 点	F	0		

- ② GPA 制度とは履修登録した科目毎の 5 段階評価を 4 から 0 までの点数（GP：Grade Point）に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点です。

$$\text{GPA} = \frac{\text{（履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目の GP）の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

- ③ 例えば、次の架空の成績をもとに GPA を考えてみると以下ようになります（実際には、皆さんは一学期間にもっと多くの科目を履修します）。

科目名	単位数（a）	評点	評語	GP（b）	a×b
〇〇学概論	2	95	A+	4	8
〇〇学要説	2	85	A	3	6
□□学演習Ⅰ	2	55	F	0	0
□□学演習Ⅱ	2	70	B	2	4
△△基礎実験	1	90	A+	4	4
計	9				22

上記の成績の学生の場合

履修登録した授業科目の単位数の和=9

（履修登録した授業科目の単位数×当該授業科目の GP）の和=22

$$\text{GPA} = 22 \div 9 = \underline{2.44}$$

2. GPA の対象とならない科目

- ・ 評点を示さず、認定または修了によって単位を取得できる科目
- ・ 岡山大学以外で修得した科目を単位として認めたもの
- ・ 各学部・研究科によって定められた期間に履修取り消しの手続きをした科目